

六
 三十日司令部高等官ノ晝食ハ各自机上ニ
 於テヤスコト
 所要晝食数ヲ二十八日中ニ確
 カメ置クコト
 (終)

1174

上

卷

謹ミテ海軍機關學校沿革竝ニ現状ノ大要ヲ奏上致シマス

一 沿 革

明治六年兵學寮ニ初メテ機關科ヲ置カレマシタカ同七年英教師「サットン」ノ建言ニ基キ機關科生徒ヲシテ横須賀造船所ニ於テ實地ニ就キテ工業ヲ學ハシムルコトトナリ主船寮ヨリ横須賀村四番地疊舎一棟及向山官舎一棟ヲ分離シテ之ヲ兵學寮分校ト稱セラレマシタ

其後明治十一年分校ヲ横須賀造船所疊舎ト交換シテ海軍兵學校附屬機關學校ト改稱セラレマシタカ同十四年ニ至リ海軍機關學校ヲ特設シ海軍兵學校所管ノ横須賀機關學校ヲ以テ之ニ充テラレ生徒ハ滿十四歲以上十六歲迄ノ者ヨリ選抜シ修業年限ヲ六箇年トセラレマシタ然ルニ同二十年ニ至リ機關學ハ將校ヲシテ講究セシムルヲ可トスル意見ニ依リ同年七月海軍機關學校ハ廢止セラレ兵學校教程中ニ機關學ヲ置キ以テ將校生徒ノ一科トセラレマ

シタカ機關學長足ノ進歩ハ更ニ機關官トナルヘキ生徒ヲ教育スルヲ必要ト認メラレ同二十三年海軍兵學校ハ將校及機關官トナルヘキ生徒ヲ教育スル所ニ改メラレマシタ而シテ江田島ノ地ハ機關術實地ノ教育ニ對シ不便尠カラスト認メラレマシテ同二十六年海軍機關學校ハ横須賀ニ設置セラレ海軍機關官トナルヘキ生徒ノ教育ヲ行フ外少機關士候補生ニ技術ノ專修ヲ施ス所トシ且下士以下ノ養成所タル機關工練習所及技手ヲ養成スヘキ技手養成所ヲ附屬セシメラレマシタ

其後明治三十年從來少機關士候補生ニ技術ヲ專修セシメタル教育制度ヲ廢セラレ機關官ノ專修スヘキ高等ノ學理ハ海軍大學校ニ於テシ又海軍機關工練習所及海軍技手養成所ハ之ヲ分離獨立セシメ海軍機關學校ハ專ラ生徒ヲ養成スル所ニ改メラレ且生徒採用年齡ヲ滿十六歲以上二十一歲未滿トシ修業年限ヲ三年四箇月ニ短縮セラレ同三十三年九月横須賀白濱ノ新校舍ニ移轉シ更ニ同四十三年生徒ノ修業年限ヲ三箇年ニ改メラレマシタ

其後大正三年從來獨立シテ居リマシタ海軍工機學校ヲ廢止セラレ之ヲ機關學校ニ合併セラレマシテ海軍機關學校ハ海軍機關官(機關官ハ大正七年機關將校ト改メラレ同九年更ニ機關科將校ト改メラル)トナスヘキ生徒ヲ教育シ海軍機關官ニ必要ナル學術ヲ教授シ且海軍特修兵タルヘキ海軍下士兵ニ機關術其他ノ技術工藝ヲ教授シ且其ノ改良進步ヲ圖ル所トセラレマシタ而シテ機關學校ニ生徒科及練習科ヲ置キ從來ノ生徒教育ハ之ヲ生徒科ニ於テシ工機學校教育ヲ練習科ニ於テ行フコトニ定メラレマシタ此ノ間生徒修業年限ハ大正四年三年四箇月ニ同七年亦三箇年ニ改メラレマシタ

選修學生教育ニ關シテハ大正九年海軍機關學校令改正ニ依リ海軍機關兵曹長ニ對シ機關科特務士官ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施スコトニ定メラレ其ノ修業年限ヲ一箇年トセラレマシタ

大正十二年九月一日關東大震災ニ依リ横須賀白濱ノ校舍ハ大部分倒壊燒失致シマシタタメ同二十二日生徒科臨時移設規程ヲ定メラレ生徒科ヲ江田島

兵學校内ニ移轉シ生徒及選修學生ノ教育實施ニ關スル事項ハ之ヲ海軍兵學校長ニ委任セラレマシタ其後大正十四年生徒科臨時移設規程ヲ廢セラレ生徒科ハ一時舞鶴要港内ニ移リマシタカ昭和二年海軍機關學校生徒科ハ舞鶴要港部内ニ置カルルコトニ決定セラレマシタ次第テ御座リマス

此ノ間大正十五年生徒採用年齢ヲ滿十六歳以上十九歳未滿ニ改メラレ昭和三年練習科ハ再ヒ分離獨立シテ海軍工機學校トナリ海軍機關學校ハ海軍機關科將校トナルヘキ生徒ノ教育及海軍機關兵曹長ニ對シ機關科特務士官ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施ス所トセラレ修業年限ヲ生徒ハ三年八箇月學生ハ一年六箇月ニ改正セラレマシタ次第テ御座リマシテ本校舎ハ昭和五年竣工致シ大講堂ハ最近竣工致シマシタモノテ御座リマス

明治二十六年海軍機關學校設置以來今日迄ノ生徒卒業者ハ一千八百七十五名選修學生卒業者ハ二百九名テ御座リマス

二 現 狀

現在ノ教育施設ハ陸上諸設備ノ外練習船由良川及小艇十五隻ヲ附屬セシメラレ又練習艦トシテ軍艦多摩第十四驅逐隊呂號第三十一潜水艦ヲ充當セラレテ御座リマス

職員ハ兼務囑託ヲ併セ高等武官三十四名准士官五名高等文官二十五名判任文官七名ニシテ生徒現在數百七十六名學生現在數十六名テ御座リマス

獨立致シマシタ海軍機關學校トシテ御臨幸ヲ辱ウ致シマスコトハ今回カ初メテテ御座リマシテ臣等一同誠ニ感激ノ至リニ堪ヘマセヌ謹ミテ

聖旨ヲ奉戴シ上下協心戮力皇恩ノ萬分ノ一二報イ奉ル覺悟テ御座リマス

1180

拜
謁
者
名
簿

單獨拜謁者

海軍機關學校校長	海軍中將	小野寺 恕
海軍中將	市川清次郎	
海軍中將	池田岩三郎	
海軍中將	山下巍八郎	
海軍中將	黒田琢磨	
海軍少將	小野徳三郎	
海軍少將	後藤 章	
海軍教授	玉井五岳	
海軍少將	太田十三男	
海軍大佐	佐藤市郎	
海軍機關大佐	兼田市郎	
海軍省教育局第一課長		
海軍機關學校教頭兼監事長		
海軍省教育局長		
海軍工機學校長		

海軍機關學校副官
海軍機關學校副官

海軍機關中佐
海軍機關中佐
海軍機關大佐
海軍機關大佐
海軍機關大佐

原重政
市村讓介
大石平次
竹内眞輔
山元進

列立拜謁者

海軍教授兼海軍技師	宮澤虎雄
海軍機關大佐	福水寛次郎
海軍教授	生山忠雄
同	早野良平
海軍機關中佐	小川得一
海軍軍醫中佐	長谷川静一
海軍教授	金森齊
海軍機關少佐	指宿不二夫
囑託教師	<small>ロージャー・ジュリアス・ イングロット</small>
海軍少佐	井上左馬二
海軍機關少佐	大江秀三

同	海軍教授	同	海軍教授兼海軍技師	海軍大尉	同	同	海軍機關大尉	同	海軍教授	海軍主計少佐	同	海軍機關少佐
關根行三	三品彰英	岡崎一二三	莊林伍郎	松尾景輔	迫田季春	河野不二	小山正宣	岡本元治郎	吉松航太郎	鳩田權藏	浦野角造	岸川覺雄

同	海軍機關兵曹長	海軍兵曹長	海軍機關特務少尉	海軍特務少尉	海軍教授	海軍軍醫中尉	海軍教授	海軍主計大尉
瀧澤龍平	山野京市	橋村卯藏	近松文治	鈴木惣三郎	北野松一	杉岡直登	前田武雄	伊丹廣

1186

單獨拜謁者名簿

舞鶴要港部

海軍大臣 海軍大將 大角岑生

舞鶴要港部司令官 海軍中將 百武源吾

海軍艦政本部長 海軍中將 杉政人

海軍省軍需局長 海軍中將 牛丸福作

海軍火藥廠長 海軍造兵少將 岸本肇

海軍軍令部出仕兼海軍大學校教官
技術會議員 海軍少將 山中政之

海軍艦政本部第三部長 海軍少將 古市龍雄

海軍參與官 川島正次郎

豫備役海軍軍醫少將 矢野環

豫備役陸軍少將 池野松二

舞鶴防備隊司令 海軍大佐 鈴木幸三

舞鶴要港部港務部長 海軍大佐 柏木英

舞鶴要港部 機關長	海軍機關 大佐	立花才次郎
舞鶴要港部 部員	海軍造船 大佐	鈴木恪司
兼舞鶴要港部 經理部長	海軍主計 大佐	川田小三郎
兼舞鶴要港部 主計部長		
舞鶴要港部 工作部長	海軍 大佐	南里俊秀
兼舞鶴要港部 病院院長	海軍軍醫 大佐	生田善次
舞鶴要港部 參謀長	海軍 大佐	祝原不知名
多摩艦 長	海軍 大佐	副島大助
舞鶴要港部 部員	海軍 大佐	平岡貞
舞鶴要港部 部員	海軍主計 大佐	片岡覺太郎
舞鶴要港部 軍需部長	海軍機關 大佐	片山清次
海軍火藥廠 爆藥部長	海軍 大佐	粟野原謙三
舞鶴防備隊 副長	海軍 中佐	津田源助

第十四驅逐隊司令 海軍中佐 福原一郎

多摩副長 海軍中佐 須知幸太郎

舞鶴防備隊機關長 海軍機關中佐 倉本誠至

退職海軍法務官 佐藤俊龍

1190

列立拜謁者名簿

舞鶴要港部

海軍

舞鶴要港部部員

海軍造機大佐 岩藤二郎

同

海軍大佐 中村由吉

舞鶴要港部軍法會議法務官
舞鶴要港部法務長兼海軍機關學校教官

海軍司法事務官 安藤守義

舞鶴要港部部員

海軍軍醫中佐 上原純之助

海軍火藥廠検査官兼海軍火藥廠爆薬部部員
舞鶴要港部部員

海軍中佐 竹内牧人

海軍火藥廠會計部部員
兼海軍火藥廠爆薬部部員

海軍主計中佐 石原徳次郎

吳海軍建築部部員兼舞鶴要港部部員

海軍技師 鈴木只重

舞鶴要港部附

同 勝田喜作

舞鶴要港部參謀

海軍中佐 森徳治

海軍艦政本部部員

同 寺垣敬三

舞鶴要港部部員	海軍主計中佐	東	壽
同	海軍造機中佐	坂口	碌三
海軍火藥廠爆藥部部員	海軍造兵中佐	長谷部	龍三郎
舞鶴要港部部員	海軍技師	浦野	秀夫
同	同	間野	俊士
海軍省軍務局局員兼海軍技術會議議員	海軍中佐	堀江	義一郎
多摩機關長	海軍機關中佐	原	新造
舞鶴要港部部員	同	林	敏之
海軍省軍需局局員兼海軍技術會議議員 海軍大學校教官	同	中野	貞雄
舞鶴要港部部員	海軍主計中佐	森岡	龍夫
舞鶴要港部部員兼海軍機關學校教官	海軍造兵中佐	安澤	晉
舞鶴要港部工作部勤務		三上	榮太郎

舞鶴要港部部員	海軍機關少佐	越澤傳治
海軍火藥廠爆藥部部員	海軍造兵少佐	栗田茂策
舞鶴防備隊水雷長兼分隊長	海軍少佐	能美實
舞鶴要港部軍法會議法務官兼東京軍法會議法務官	海軍司法事務官	仁禮愛之
海軍省法務局局員兼海軍機關學校教官	海軍機關少佐	安藤錦之助
舞鶴要港部附	海軍藥劑少佐	一條正一
舞鶴要港部部員	海軍造船少佐	西村彌平
同	海軍少佐	瀬戸山安秀
葵驅逐艦長	同	加藤榮吉
舞鶴要港部副官兼參謀	同	吉田義行
舞鶴要港部部員兼分隊長	同	杉野修一
菊驅逐艦長	同	山本善雄
海軍省副官兼海軍大臣秘書官	同	山本善雄

舞鶴要港部部員	海軍機關少佐	中筋新太郎
同	海軍技師	市野金一
舞鶴要港部部員兼分隊長	海軍少佐	久保田智
舞鶴要港部部員	同	本告唯次
舞鶴要港部附	海軍機關少佐	石塚正俊
舞鶴要港部部員兼分隊長	同	田邊保里
舞鶴要港部部員	同	堀江茂
同	海軍主計少佐	泰羅登喜治
舞鶴要港部部員兼分隊長	同	岩田清治
吳海軍建築部部員兼舞鶴要港部部員	海軍技師	荒木隆吉
舞鶴要港部部員兼海軍機關學校教官	海軍少佐	副島富士太郎
呂號第三十一潜水艦長	同	都築登

千鳥水雷艇長	同	山田	勇助
舞鶴海軍無線電信所長兼舞鶴要港部參謀	同	御船	傳藏
第十四驅逐隊機關長	海軍機關少佐	緒方	清
舞鶴要港部部員兼分隊長	海軍軍醫少佐	松岡	純一
舞鶴要港部部員	海軍造兵少佐	南	信一
友鶴艦裝員長	海軍大尉	岩瀨	奧市
夕顔驅逐艦長	同	西川	一男
多摩水雷長兼分隊長	同	竹内	虎四郎
舞鶴要港部部員兼海軍機關學校教官	海軍機關大尉	鈴木	重初
多摩分隊長	同	上野	敏之
舞鶴要港部部員兼千鳥乗組	海軍主計大尉	清水	誠男
多摩主計長兼分隊長	同	薄井	正藏

舞鶴要港部附	海軍主計大尉	中嶋仁三良
舞鶴要港部部員兼海軍機關學校教官	海軍造船大尉	本多政徳
舞鶴防備隊分隊長	海軍大尉	吉井五郎
多摩航海長兼分隊長	同	山中秀夫
舞鶴防備隊主計長兼分隊長	海軍主計大尉	清水惟太
多摩通信長兼分隊長	海軍大尉	有澤直定
舞鶴要港部部員兼分隊長	海軍軍醫大尉	久島猛男
海軍火藥廠爆藥部部員	海軍主計大尉	戸來三郎
舞鶴要港部部員	同	中山清市郎
第十四驅逐隊主計長	同	中山清市郎
舞鶴要港部部員	同	澁谷安雄
海軍火藥廠爆藥部部員	海軍技師	佐藤誠一
多摩分隊長	海軍機關大尉	成尾浩

不 參
舞鶴防備隊軍醫長兼分隊長
舞鶴要港部部員

海軍軍醫大尉 松尾傳

多摩軍醫長兼分隊長

同 神代延敏

夕顔乗組

海軍大尉 岸上孝一

舞鶴防備隊分隊長

同 吉野捷三

呂號第三十一潜水艦乗組

海軍機關大尉 石山重男

舞鶴要港部部員

海軍造船大尉 秋山忠良

菊乗組

海軍機關大尉 金崎義忠

第十四驅逐隊軍醫長

海軍軍醫大尉 黒田秀隆

葵乗組

海軍中尉 朝倉幸平

夕顔乗組

海軍機關中尉 竹内由太郎

菊乗組

同 三宅清太

舞鶴防備隊附

海軍機關特務中尉 吉村光藏

千鳥乗組	海軍軍醫中尉	信夫主税
葵乗組	海軍中尉	橋本正雄
友鶴縫装員	海軍機關中尉	古谷萬太郎
千鳥乗組	同	平谷一重
同	海軍中尉	藤田小太郎
夕顔乗組	同	桑原新兵衛
多摩乗組	海軍機關中尉	吉田毅
舞鶴要港部軍需部勤務	豫備役	田子三太郎
舞鶴要港部工作部勤務	同	旭井安範
舞鶴要港部附	海軍特務少尉	永吉久七
舞鶴防備隊附	同	前川平助
多摩乗組	海軍機關特務少尉	長田忠作

友鶴機装員	舞鶴要港部附	葵乗組	舞鶴防備隊附	友鶴機装員	多摩乗組	舞鶴要港部附	葵乗組	菊乗組	舞鶴要港部附	菊乗組	舞鶴要港部附
海軍特務少尉	海軍主計特務少尉	同	同	同	同	海軍機關特務少尉	海軍特務少尉	同	海軍機關特務少尉	同	海軍特務少尉
吉武喜重郎	菅景準	渡邊誠一	白石繁太郎	大島喜兵衛	平田寅吉	谷本伊三七	米田一郎	松尾源司	二井忠治郎	多胡關太	和田豊一

舞鶴防備隊附	海軍機關特務少尉	木村長太郎
千鳥乗組	同	加藤龍三
多摩乗組	海軍特務少尉	早坂庄助
舞鶴要港部附	海軍看護特務少尉	俵藤市
菊乗組	海軍少尉	注連澤春夫
不參	同	成谷昇
夕顔乗組	海軍機關少尉	石森市五郎
千鳥乗組	海軍主計少尉	手島厚
多摩乗組	同	梅崎實
舞鶴要港部附	海軍特務少尉	上野勝
舞鶴防備隊附	海軍機關特務少尉	池田與宗衛
多摩乗組	海軍主計特務少尉	高木雅樂

菊乗組	海軍少尉	湯淺弘
舞鶴防備隊附	海軍特務少尉	小畑悟朗
呂號第三十一潜水艦乗組	海軍機關特務少尉	岩爪豊治
夕顔乗組	同	塩見泰治
舞鶴要港部附	同	林庄太郎
舞鶴要港部工作部勤務	豫備役 海軍主計特務少尉	石田良春
舞鶴防備隊附	海軍機關兵曹長	石川末治
多摩乗組	同	三枝太六
舞鶴要港部附	同	安達産平
同	海軍主計兵曹長	井上俊三
舞鶴防備隊附	同	吉田繁太郎
多摩乗組	海軍兵曹長	武者武一

舞鶴要港部附	海軍兵曹長	山	本	定	一
舞鶴防備隊附	海軍機關兵曹長	田	邊	清	吾
舞鶴要港部附	海軍兵曹長	高	橋	今	治
呂號第三十一潜水艦乗組	海軍機關兵曹長	西	辻	林	藏
葵乗組	同	澤	田	熊	吉
舞鶴要港部附	海軍主計兵曹長	谷	口	爲	雄
同	海軍兵曹長	齋	藤	儀	藏
千島乗組	同	林	川	源	藏
海軍火藥廠附	同	板	垣	今	治
舞鶴防備隊附	同	清	水	爲	行
舞鶴海軍無線電信所附	同	小	林	利	太
友鶴艦裝員附	同	安	廣	六	郎

舞鶴要港部附	同	常	塚	三	郎
千鳥乗組	同	富	永	忠	重
葵乗組	同	中	谷	武	夫
舞鶴要港部軍需部勤務	豫備役 同	太	田	玉	之助
同	退役 同	植	垣	賢	次郎
舞鶴要港部工作部勤務	後備役 陸軍上等計手	武	瓊		潔
舞鶴要港部軍需部勤務	退役 海軍兵曹長	横	田	長	五郎

地方

舞鶴區裁判所判事

判事 古山茂夫

内務省舞鶴港修築事務所勤務

内務技師 太田壽

京都府立舞鶴中學校長

公立中學校長 鴨志田磯五郎

海軍機關中佐 鳥居秀夫

海軍軍醫中佐 堀澤四朗

陸軍砲兵中佐 牛窪其三男

海軍特務大尉 淺野理之助

八澤虎三郎

上村敬介

判事 種谷東洋

舞鶴區裁判所判事

京都府立舞鶴高等女學校校長兼教諭

公立高等女學校校長
兼公立高等女學校教諭

中澤眞吉

陸軍歩兵中尉

鈴木貞太郎

陸軍二等軍醫

高橋要太郎

陸軍砲兵大尉

鶴内武

海軍特務少尉

田邊庫太郎

同

和田兵太郎

海軍特務中尉

森下音市

同

新國一

海軍機關特務中尉

白井喜作

同

北村太一郎

海軍特務大尉

有馬映芳

海軍機關特務少尉

山本善太郎

海軍機關特務大尉 高橋留之助

陸軍砲兵大尉 津田平七

海軍特務中尉 古川久吉

海軍特務大尉 二宮忠吉

陸軍歩兵少佐 手代木滿雄

京都府立舞鶴高等女學校教諭 公立高等女學校教諭 武内繁松

舞鶴區裁判所檢事兼京都地方裁判所 舞鶴支部檢事 檢事 小藪堯吽

京都府立舞鶴中學校教諭 公立中學校教諭 角谷寛

同 同 吉田寅雄

舞鶴郵便局長 特定三等郵便局長 立野三郎

海軍特務少尉 野田銀一郎

同 機關兵曹長 五十嵐富藏

海軍特務少尉						陸軍二等軍醫		海軍特務少尉	海軍機關特務少尉	海軍特務少尉
平	井	青	鈴	水	上	大	池	島	鈴	松
谷	口	木	木	島	羽	橋	田	崎	木	岡
成	峯	長	駒	太	脩	覺	藤	治	惣	佐
壽	藏	壽	太郎	一	吉	三	藏	一	七	藏

舞鶴警察署勤務

新舞鶴町長

中舞鶴町長

海軍看護特務少尉

宇野治市

海軍主計特務中尉

鍋田球治

海軍機關特務少尉

吉田己之次郎

仁茂田梅吉

橋本卷太郎

京都府警察技手

五十嵐清作

瀬川治太郎

上野角次

中山勇

熊原徳次郎

岩田廣作

瀬野泰藏

舞鶴町長

小學教育功勞者

警察功勞者

川北正太郎

中島錦三郎

濱田音松

通達第三一三號

昭和八年十月十日

海軍機關學校長 小野 寺 恕

天皇陛下來十月三十日本校へ 行幸被爲在ニ付同日本校ニ於ケル
儀禮 天覽諸作業御警衛其ノ他ニ關シ左ノ通定ム

御發着

一、午後零時四十二分舞鶴要港部會議所 御發、同零時四十五分海軍機關學校
御着、同一時三十分海軍機關學校 御發、舞鶴要塞司令部ニ向ハセラル

奉迎、奉送式

二、奉迎式

(一) 校長(副官一隨行)ハ舞鶴要港部ニ 行幸ノ際新舞鶴驛ニ於テ奉迎ス

1210

三、奉送式

- (二) 本校ニ 行幸ノ際校員ハ別圖第一ノ位置ニ整列奉迎ス
但シ特別任務ニ従事スルモノヲ除ク
- 本校 御發ノ際校員ハ別圖第二ノ位置ニ整列奉送ス
但シ特別任務ニ従事スルモノヲ除ク

拜 謁

四、左記ニ依リ拜謁ヲ行ハル

(一) 單獨拜謁

御着後直ニ御座所ニ於テ行ハル

海軍機關學校ニ在勤及參校ノ宮中席次第三階以上ノ者
單獨拜謁ノ要領別圖第三ノ如シ

(二) 列立拜謁

校長現狀奏上後御前講演室ニ於テ行ハル

海軍機關學校ニ在勤ノ奏任官同待遇及宮中席次第四階乃至第六階ノ者
列立拜謁ノ要領別圖第四ノ如シ

沿革竝ニ現状奏上

五、單獨拜謁終了後校長 御座所ニ於テ本校ノ沿革竝ニ現状ニ就キ奏上ス

學生、生徒 御親閱

六、列立拜謁ニ引續キ大講堂ニ於テ行ハル

御親閱ノ要領別圖第五ノ如シ

御親閱後一旦 御座所ニ 入御被爲在

校内及學生、生徒諸作業 御覽

七、晴天ノ際ハ大講堂立關ヨリ 出御、雨天ノ際ハ廳舎ニ通スル渡廊下ヲ經テ

廳舎、軍事學講堂、學生舎、生徒館、大練兵場、校庭ヲ 御巡覽被爲在

八、第四教室ニ於テ機關雛型及生徒成績品ヲ、監事部ニ於テ訓育關係參考品ヲ、

大練兵場ニ於テ生徒總員ノ蹴球ヲ、校庭ニ於テ選修學生總員ノ弓道ヲ 御

覽被爲在

但雨天ノ際ハ選修學生總員ノ弓道ヲ取止メラル

前項諸作業ノ實施要領ハ別ニ之ヲ定ム

九、校内 御巡覽ノ際ハ校長御先導、教頭、副官、列外扈從ス

十、校内 御巡覽御道筋第六圖(晴天ノ際)第七圖(雨天ノ際)ノ如シ

十一、校内ニ於ケル 御豫定時間左ノ通

(一) 晴天ノ際

○—四五 機關學校 御着

○—四五 單獨拜謁

校長現狀奏上

○—五〇 列立拜謁了テ學生、生徒 御親閱

○—五二 大講堂 御發

第四教室 御着

機關雛型、生徒成績品 御覽

○—五七 第四教室 御發

生徒館 御巡覽訓育關係參考品 御覽

五

二、列立拜謁ハ御前講演室

學生、生徒 御親閱ハ大講堂

五 御覽時間一分半

五 御覽時間約二分半

(二)

雨天ノ際

一〇二 生徒館 御發

大練兵場 御着、生徒總員ノ蹴球 御覽

一〇七 大練兵場 御發

校庭 御着、學生弓道 御覽

一一三 校庭 御發

一二五 御座所 御着

一二五 御休憩

一三〇 機關學校 御發

〇四五 機關學校 御着

〇四五 單獨拜謁

校長現狀奏上

〇五〇 列立拜謁了ヲ學生、生徒 御親閱

〇五二 大講堂 御發

第四教室 御着

機關雜型、生徒成績品 御覽

二五 御覽時間約十二分

五 御覽時間約二分

三

五

五

二 列立拜謁ハ御前講演室
學生、生徒 御親閱ハ大講堂

五 御覽時間約二分

〇一五七 第四教室 御發

生徒館 御巡覽、訓育關係參考品 御覽

六 御覽時間約二分

一〇三 生徒館 御發

大練兵場 御着、生徒總員ノ蹴球 御覽

一五 御覽時間約十一分

一八 大練兵場 御發

二〇 御座所 御着

二〇 御休憩

三〇 機關學校 御發

服 裝

十二、武官 通常禮裝（動三等以上ハ最高勳章一個及記章全部）
（動四等以下ハ勳章記章全部）

文官 通常服

御警衛竝ニ諸取締ニ關スル事項

十三、校内ニ於ケル御警衛配備ハ別圖第六、（七）ノ如シ

十四、御警衛竝ニ諸取締ニ關スル細項ハ別紙ニ依ル

（終）

御警衛竝ニ諸取締實施要領

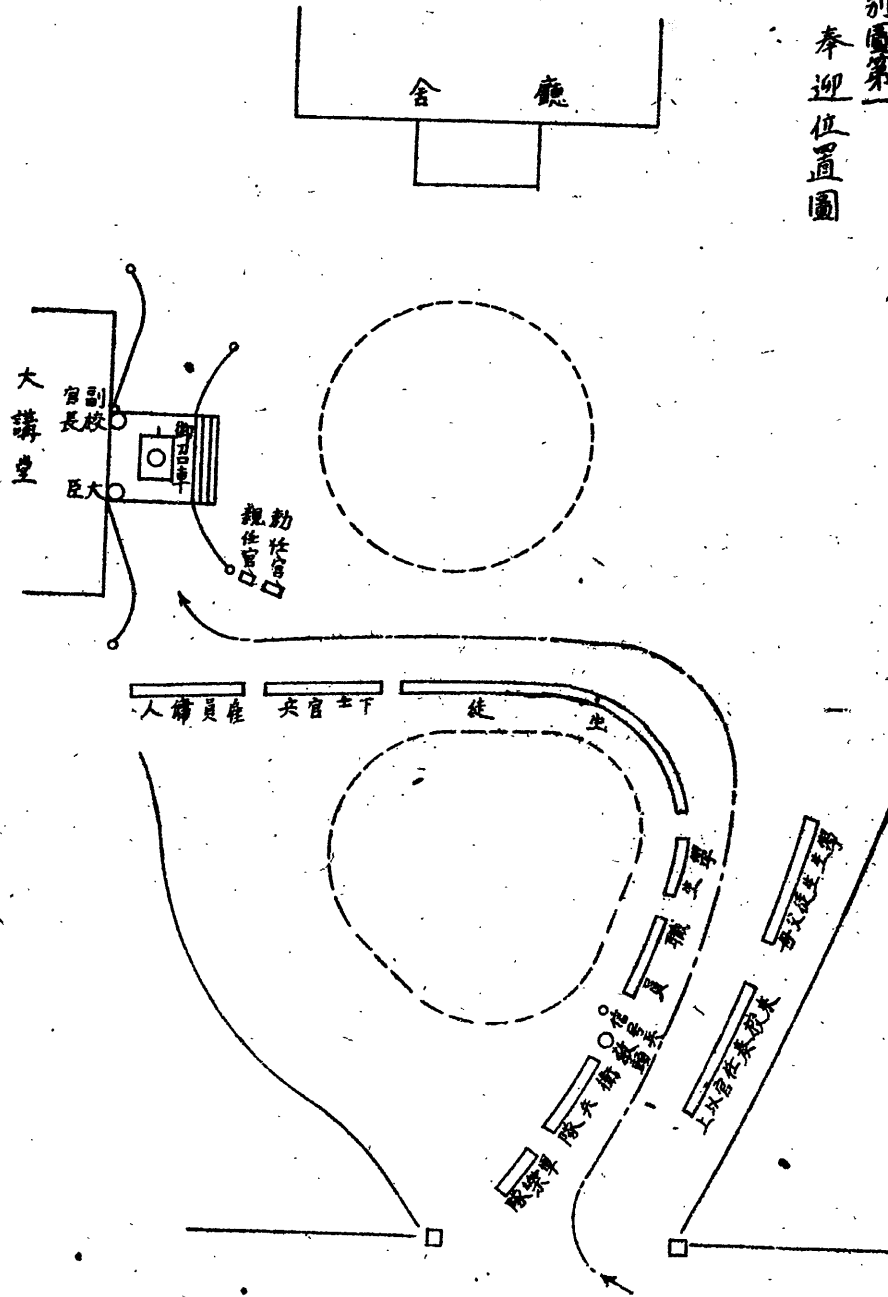
- 一、本校構内ノ警戒ハ本校之ニ任ジ兵員ヲ以テスル衛兵ノ外憲兵ノ協力ヲ受ク
- 二、本校隣接民有地域ノ警戒ハ本校警察側ニ協力ス
- 三、本校衛兵ノ編成竝ニ服務左表ノ通定ム

衛 兵 隊						編 制
指揮官 特務監事 附 甲板士官 各班共 班長下士官一 次長下士官一 班員一、二等 兵五乃至六ト シ更ニ二組ニ 分ツ						班
六	五	四	三	二	一	員數
八	八	八	八	七	七	警 戒 區 域
中 央 部	大 練 兵 場	全 北 側	全 西 側	全 南 側	校 域 東 側	警 戒 距 離
	五二〇米	四三八米	三三四米	二七〇米	二三〇米	備 考
一、各班ハ必要ニ應 ジ移動警戒ヲナ サシム 二、各班長ハ常ニ班 間ノ連結ヲ緊密 ニ保持スルヲ要 ス						

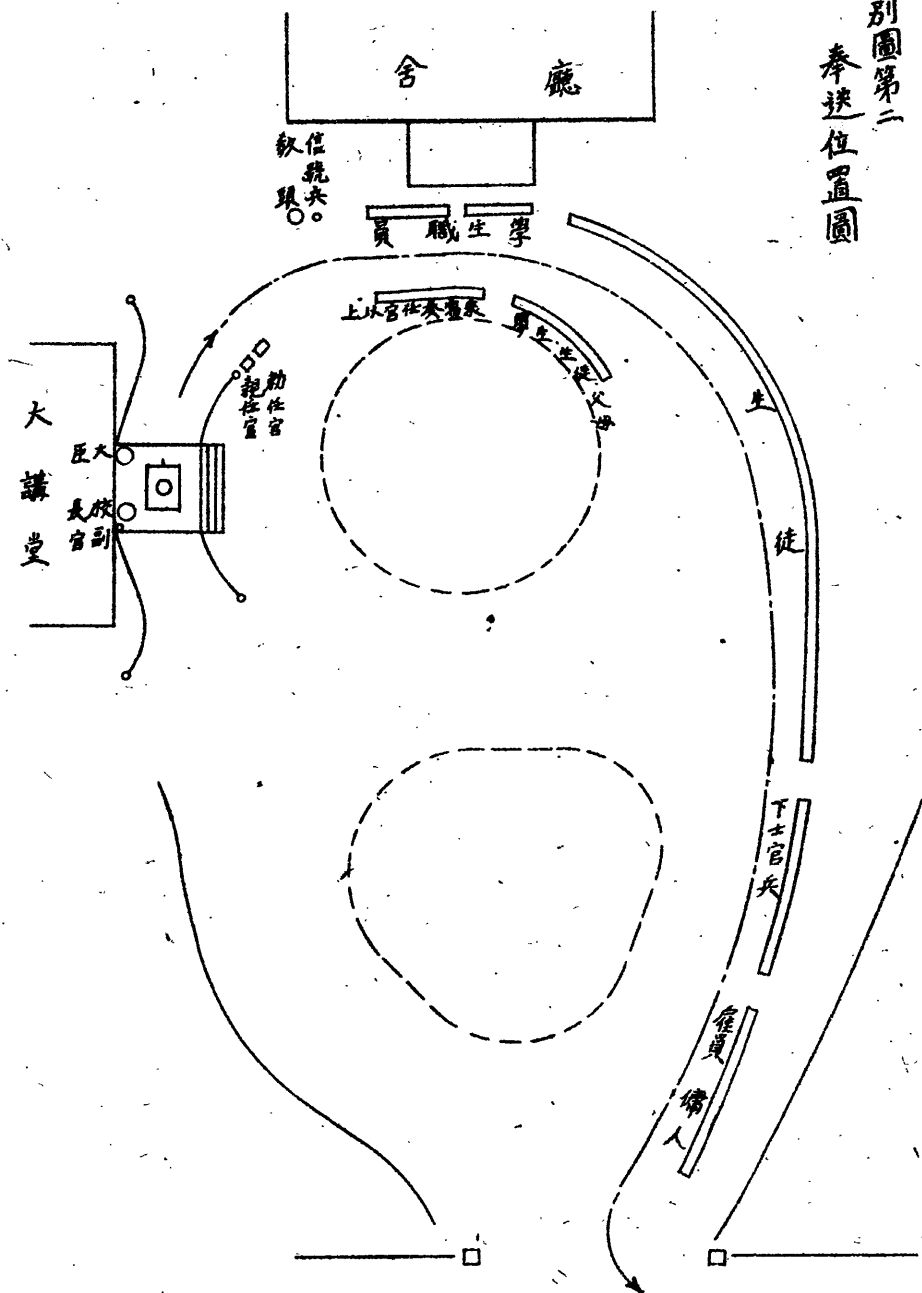
- 四、衛兵ハ 行幸一時間前ヨリ配員シ 御出發後撤去ス
- 五、外來者ニ對シテハ本校ニ於テ身元調査ヲナシ通門許可證ヲ交付ス
學生、生徒ノ父母ニ對シテモ右ニ準ス
- 六、行幸當日海軍關係各部ニ出入スル新聞記者、寫眞班等ニ對シテハ舞鶴要港部司令部ニ於テ身元調査ヲ行ヒ通門許可證ヲ
交付ス
右ノ人員氏名ハ舞鶴要港部司令部ヨリ本校ニ通知ス
- 七、新聞記者、寫眞班ニ對シテハ係員ヲ附シ左記要領ニ依リ取締ヲ行フ
 - イ、常ニ集結行動セシメ單獨行動ヲナサシメズ
 - ロ、適宜説明ヲ加ヘ成ルベク職務遂行ニ都合ヨキ位置ニ誘導ス
 - ハ、寫眞班ハ室外ノミ拜寫ヲ許可ス、同一場所ニテ拜寫シ單獨移動セシメズ
 - ニ、正面ヨリノ拜寫ヲ禁ズ又 御前ニテ濫ニ移動セシメズ
 - ホ、部外ノ活動寫眞拜寫ヲ禁ズ
- 八、行幸當日ハ特ニ許可セラレタル者ノ外部外者ノ出入ヲ嚴禁ス

(終)

別圖第一
奉迎位置圖

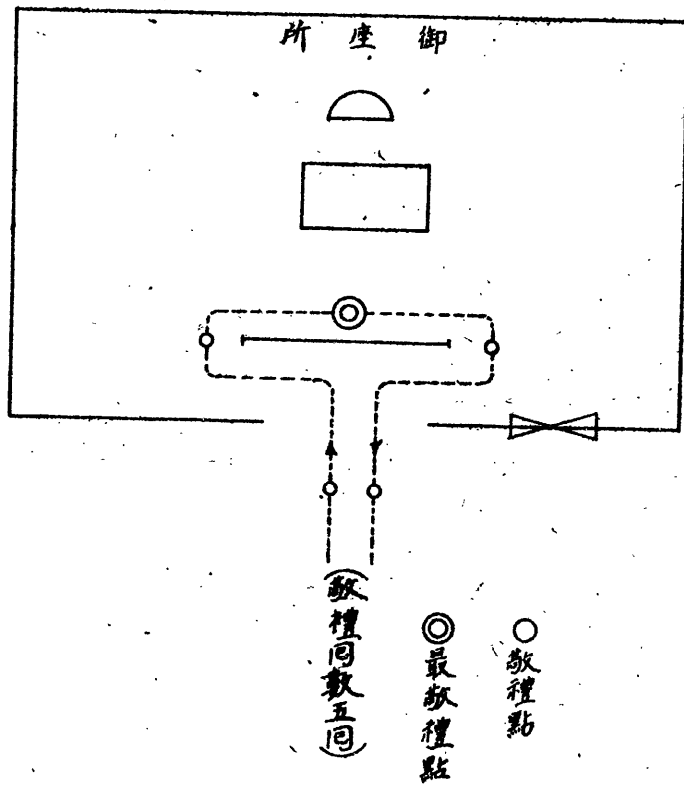


別圖第二
奉送位置圖

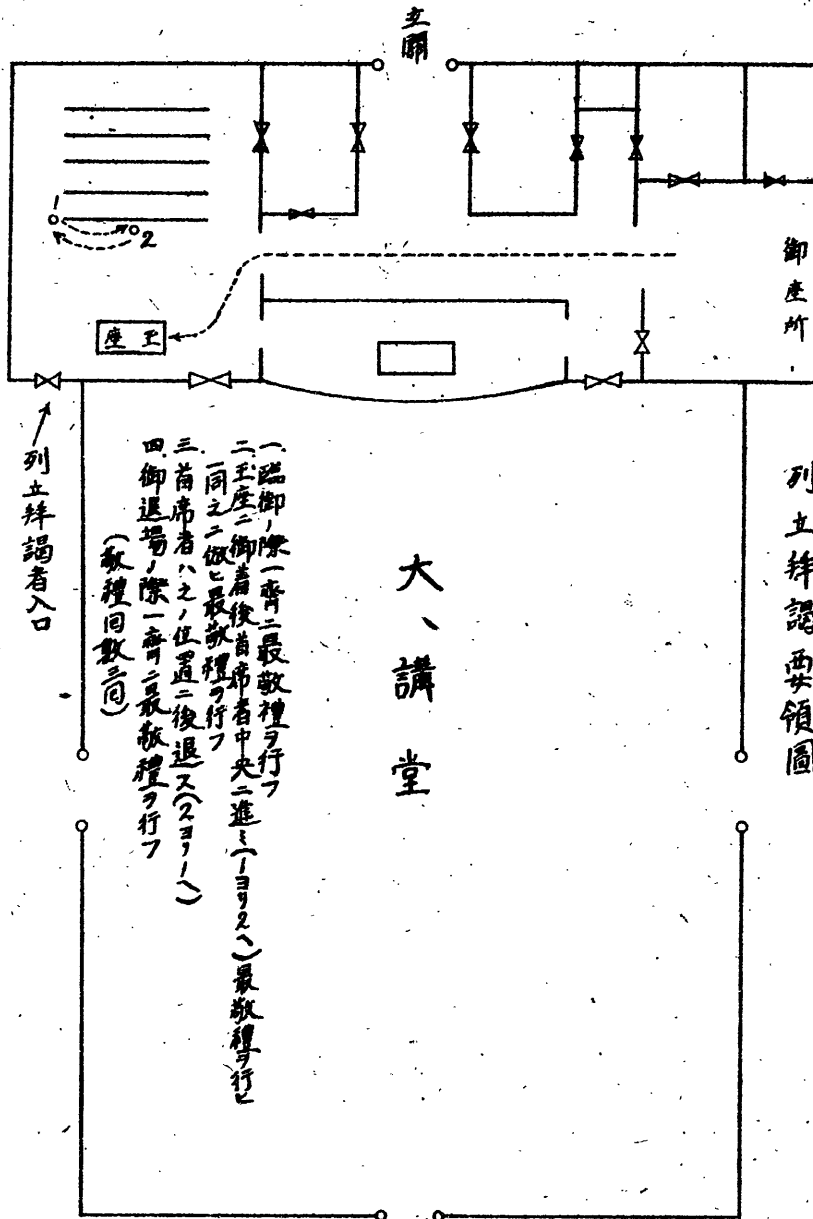


別圖第三

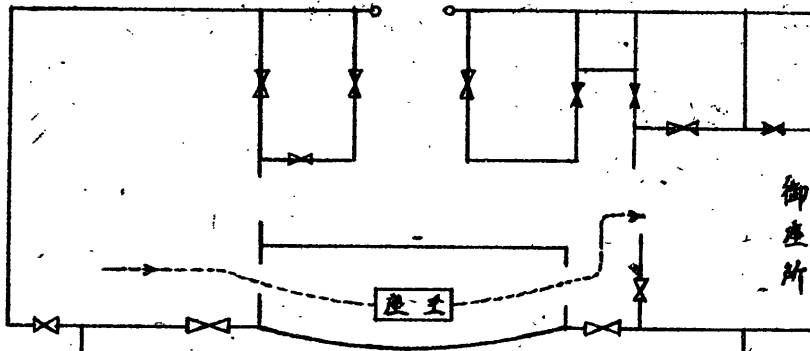
單獨拜謁要領圖



別圖第四



別圖第五



學生生徒御親問要領圖

